

考えても、そのような疼痛を訴える症例には、妊娠合併症の1つとして、肋骨骨折に対する一応の配慮が必要であろう。

11. 過去7年間における当教室心疾患婦人の分娩経過についての統計的観察

(大阪市大) 山田 文夫, ○播磨昌幸  
田中 新平, 長谷川博規

当教室において、昭和39年以降7年間に入院分娩を行なった心疾患妊婦73例について、臨床的観察を行ない若干の知見を得たので報告する。対称については、初診時より適時、血圧、心電図および胸部写真を check し、また分娩後の予後についても調査した。

(成績) (1) 心疾患例の頻度は、0.1~1.1%で、その中、後天性弁膜症例は32.7%、先天性心症例は45.2%。(2) NYHAの心臓機能分類にもとづいて初診時に分類を行なうと、僧帽弁膜症例にⅢ度以上の症例が20%みられた。(3) 妊娠、分娩、産褥期を通じて、心不全の発生は僧帽弁疾患(僧帽弁狭窄9例中4例、僧帽弁狭窄兼閉鎖不全4例中1例)のみであった。(4) 初診時の心電図所見の種類と頻度の検討では、心房中隔欠損例では、右脚ブロック、僧帽弁膜狭窄例では、右心肥大と僧帽性P、僧帽弁狭窄兼閉鎖不全例では、両者の他に左心肥大を示し、僧帽弁疾患例では、冠不全所見を合併する例が多かった。(5) 分娩前後において、心電図上代表的なⅡ、またはⅤ<sub>1</sub>誘導のST変化を検討すると、0.1mV以上のST降下は初産婦で約22%、経産婦で約55%(健常妊婦では両者とも約2%)であった。(6) R P Q値は、心疾患例では全例増加した。(7) 予後調査では、心症状が著明となつた1例を除き、母児ともに変わりなしという回答が多かった。

質問・追加 (東京女子医大) 大内 広子

1) 先天性心疾患の合併した妊産婦が増加している成績ですが、その母親より生れた新生児の心奇形の発生がなかつたようにききましたが、如何でしょうか？

2) 私は85例の先天性心疾患合併の母親から生れた新生児に8例の母親とおなじ心疾患をもつた児をみましたので追加します。

回答 (大阪市大) 播磨 昌幸

(1) 東京女子医大 大内教授へ。

当教室で扱った先天性心疾患例には新生児の奇型は認められませんでした。

(2) 北海道大学 松田正二教授へ。

経腔分娩か帝王切にするか、定見はないが、一応初診時

に、心電図、X線、心音図で疾患名を決定し、その後、リウマチの有無、心不全の有無(特にジギタリゼーションの効果の有無の判定)、妊婦の年齢、経産回数および患者の経済的状態や病識等を検討し、原則として産科学的適応のない症例には経腔分娩を行なわせるようにしている。

12. 妊娠と NEFA (non-esterified fatty acid)

(岡山市立市民病院) 高知 床志, ○庄司 孝

近年血清脂質の分析がすすみNEFAの持つ代謝上の意義、臨床的な価値が注目されるようになった。われわれは先に妊婦と糖尿病、耐糖能異常について一連の研究を発表して来たが、今回は妊婦の血糖値、耐糖能およびNEFA値を測定し妊娠と分娩と云う特別な負荷のかかった状態での生体内の糖質、脂質代謝の特異性を知る手がかりを得ようと試みた。

岡山市民病院で過去1年間に分娩した妊婦28名についてHeinz Haury社のTest Kitを使用して妊娠のI II III trimester および産褥5、6日、産後1カ月目の6時期に早朝空腹時NEFA値を測定しGTT, PGTTを施行した。III trimesterにおけるNEFA値を調べると耐糖能異常群で0.49mEq/dl、正常群で0.39 mEq/dlと耐糖能異常群でNEFA値が高い、耐糖能異常な妊婦からの出産児は平均体重3,470grと正常群2,985grにくらべて大きい。同様にNEFA値が0.40 mEq/dl以上の群では出産児体重が3,360 grであるのに対しNEFA値0.40 mEq/dl以下の群では3,170grと小さい。妊娠中0.40~0.50mEq/dlであったNEFA値は産褥5、6日目には0.18mEq/dlと約1/3に低下する。

人体のenergy産生は主としてglucoseとNEFAの酸化によつて行なわれる訳だが糖尿病や飢餓状態ではブドウ糖の利用が少いためenergyはlypolysisによつて得られるのでNEFA値が高くなる。今回の調査でも耐糖能異常群でNEFA値が高くNEFA値の高い妊婦から体重の大きい児が出産する傾向を示している。妊娠中胎児胎盤系のenergy源としてlypolysisが亢進するためNEFA値が上昇すると考えられる今回の結果である。

13. Latex 凝集による妊娠反応 (Gonavislide): 特にその定量的応用について

(群馬大) 松本 清一, ○玉田太朗

Gonavislideは、抗HCG抗体で感作したLatex粒子がHCGにより凝集するというユニークな原理を利用した妊娠反応で、操作がone stepですむのみならず、凝集阻止反応では、HCGおよび抗HCGの両方が純度の